

注) ゴシック体で記述されているものは、外部評価(学校評議員、PTA執行部及び学年選出役員)です。明朝体部分は、職員による評価です。

## 2 『樹木を育てる太陽・雨となる教育環境(整備)、学校とそれを取り巻く様々な団体・人との連携を実践して成果の見られた具体的な内容』

### (1) 学校図書館の整備

#### A 学習・情報センターとしての機能

- ・ 情報収集および、調査の中心として活用している。図書の種類も毎年要望に応じてもらい、増えているので年々活用しやすくなっている。
- ・ 図書室や総合センターの本で分からないことを調べる子どもたちは多い。他のメディア(特にインターネット)で調べられる環境を充実させたい。
- ・ パソコンを数台置いて、子どもたちが気軽にインターネットで、情報収集できる場であってほしいと思う。
- ・ 調べ学習用の本と読み物の本が分けて整理されており、本を探しやすい状態になっている。
- ・ 読むだけでなく、疑問を調べるために本を使うという活動を行ってきた。科学的な読み物や図鑑なども読むようになり、読書の範囲が広がった。夏休みの課題にも調べ学習を盛り込み、物語以外の本も読むようにした。本によって疑問を解決する楽しさや新しい知識を得るおもしろさを知らせることができたように思う。読む必要感をもたせる読書というのも必要であると思う。
- ・ 家ではインターネットをやっていないが、学校ではインターネットを利用して調べ学習をしたりしているそうなので、家でも始めようかと考えている。
- ・ パソコンも本を開くように自然にむかえるといい。
- ・ 教わっていないから分からなくてもいいと思うのではなく、結果的に理解できなくても自分で調べ理解しようとする姿勢が大切だと思う。また、そのような場をつくってあげることも大切だと思う。

#### B 読書センターとしての機能

- ・ W先生がいないと、探したい本がすぐに見つからない。(私が図書室をもっと知ればいいのだが...) W先生みたいな読書相談員が毎日いるとありがたい。無理なら上述したようにパソコンを設置し、本の管理ができるようにしたい。
- ・ 「畳や絨毯をひいて、ごろんと寝ころんだりできるスペースをつくり癒しの空間になったら。」と考えていたが、学級で対応しているところがあった。
- ・ 一部の子どもたちにとっては機能している。下学年が行っているように畳などを敷き、気軽に読書できる空間を作ってみてはどうか。
- ・ 昨年に比べ多くの子が本を読んでいると思う。読書への関心が高まり、図書館の利用度も増え、よいことだと思う。ただ、本の扱い方、部屋の使い方にはもう少し指導が必要である。読書への関心を高めながら、正しいマナーを身に付けさせたい。
- ・ 図書に関して、いろいろな情報をもとに絵本などを選び増やしてほしい。
- ・ 土日には借りてきた本を読んでいた。
- ・ 読書への取組は活発に行われていてとても感心している。
- ・ 3年生の子が、2年生の時とは物語的な本しか読んでいなかったように見えたが、今は図書室で興味のあることに関する本を選んで読むようにしているようだ。「ぼくは の本を読んでいるんだよ」と家で話している。
- ・ 蔵書9,000冊は驚きだ。
- ・ 子どもの成長にとって、読書習慣はとても大切だ。学校図書室の充実は、恒常的に図ってもらいたい。
- ・ 楽しそうに本を借りてくる子どもを見るとうれしいと思う。夏休みも図書室を使えるようになって、もっと本に近付いてくれるとうれしい。そして、図書室を使うマナーも教えていきたいと思う。
- ・ 図書室が図書館の役割を果たすのはよいことだ。特に、この夏休みの図書室開放は、働く親にとっては大変ありがたいことだ。子どもも自ら「夏休みは図書室に行く」と言っている。欲を言えば、もう少し読みふけるような本があればいい。
- ・ 今年の夏休みは、図書室開放の日があるので、うれしく思う。子どもたちがたくさん利用するといい。

- ・ 夏休み中の図書室開放はとても良いことだと思う。
- ・ 夏休み中に本が借りられるのは、子どもにとってよいことだ。
- ・ 読書に親しむ環境が整備されているのか、図書室へ自然に足を運んでいるように思う。
- ・ 最近、マンガが多いのでびっくりした。もちろん、マンガが悪いというのではなく、興味をもたせる手段としてよいと思う。ただ、それだけで終わらないように子どもが育ってくればと思っている(自分も一般常識の多くをマンガで覚えた)。
- ・ これはうちの子に対してだが、読む本の数だけでなく、その本の場面を考えたり、登場人物がどうしてそういう行動をとったのかと考えて、イメージを広げていく楽しさがなく、数をこなせばよいという考えがあるようだ。ゆっくりと本の楽しさを知ってほしい。もちろん、本を読もうという意欲は感じられる。
- ・ 図書室からよく本を借りてくるが、返却が遅くなっている本もある。自分でチェックしているようだが、返却が滞っている子どもに返却を催促するようなことを言ってもらえないか。
- ・ 本により親しむために、ブックトークや語り(読み聞かせ)などを学年または学級単位で取り入れてみてはどうか。

## (2) コンピュータ等の教材・教具の準備

### A 校内LANにかかわる整備と活用(成果と課題)

- ・ とても便利で助かった。しかし、〇先生がいなかったらと考えるとゾッとする。
- ・ ウイルス対応にかなり時間をさいてくださっている先生がいらっしゃる。是非、民間の方にもっと入っていただいてもよろしいのではないかと？いくら何でも大変すぎると思う。
- ・ なんとと言ってもセキュリティの向上が急務ではないだろうか。ウイルスが流れ込んでくる可能性が高いのでは。
- ・ 職員室のPCを使うと時々フリーズして動かなくなることがある。新しいデータを入力するのが怖い。

### B コンピュータ機器の整備と活用(成果と課題)

- ・ 児童がコンピュータに慣れるのは、やはり経験だと思う。そのためには各教室にもコンピュータをおいてほしい。児童が授業時間や休み時間等に気軽にコンピュータにふれる環境づくりが大切であると思う。
- ・ 職員室にもコンピュータを設置してほしい。現在は職員一人一人が実費で購入したコンピュータを学校事務のために使用している。故障したり、ウイルスに感染したりしても、何の保証もない。それであれば、学校事務用のコンピュータを職員一人一人に配置してほしい。
- ・ 毎年書いてしまう、プリンタの増設。さらに、PC-061の固まりすぎはどうしたらいいのだろうか。
- ・ 前述したがパソコンルームを開放するか、数台図書室に設置して開放してほしい。子どもたちが休み時間等に気軽にできるように。
- ・ 今年こそ休み時間の開放を期待している。
- ・ 通知表のパソコン制作はありがたい。紙を削減するためにも、できれば添削もパソコンでしていただければ、最高だ。
- ・ 自分はやらないので分らないが、通知表がPC入力になったことが画期的な変化だと思う。
- ・ 修学旅行の下調べでかなり利用していたみたいだ。正直言って、子どもたち自身で行く店を探して選んで予約するというのには驚いた。ただ、子どもが「学校ではインターネットが繋がらない」と言っていたのにはがっかりした。田舎に住んでいても、都会と同等にインターネットぐらいは使えればと思う。
- ・ 修学旅行で、いろいろな所をインターネットで情報を得て行動した。それだけでも自主性・行動力・思考力などすべての面でよいと思う。
- ・ 学校のパソコンを、もっとクラスの授業に役立ててもらいたい。
- ・ 私の子どもは、学校でのパソコンの話は一切しない。多分パソコンに向かっていないのではないかと思う。全校の子どもがパソコンに向かう時間があるのだろうか？
- ・ PC教室が開放されているのかどうか分からないが、一部の子どもだけでなく、全校の子どもがパソコンに向かわなければ、望ましい活動の姿は見られないのではないかと。授業、放課後などたくさん触れられる時間を多くとっていただきたい。
- ・ 子どもがパソコンに興味をもっているので、いろいろとさせてほしい(家にはパソコンがないので)。
- ・ パソコンはどのように利用されているのか分からないが、どの学年もパソコンを自由に使える時間があると、より興味がわいてくると思う。
- ・ パソコンは生活の一部になっている。これからもパソコン教育を強化していただきたいと思う。家でもパソコンに触れることが多くなった。

- ・ 子どもがコンピュータ、メールなどに興味をもつようになった。
- ・ インターネットだけでなく、EXCLやWORD等も習得できる時間がもてれば理想だ。
- ・ 家でインターネットをあまりやっていないので、学校ではあまり興味が無いようだ。好きなように使えないとのことで・・・

### C コンピュータソフトの整備と活用（成果と課題）

- ・ 充実してきている。ただ、一部の人しか知らない。

## (3) 幼・保・小の連携

A かけはし推進委員会 B 生徒指導連絡協議会

## (4) 学校支援(支援・参加・参画・評価)

### A 学校評議員

#### B PTA

- ・ 学校への関心の高さが、連絡帳・懇談会などで感じられる。
- ・ 漢字テスト、計算テストに向けて親も子どもにしっかりと練習させていきたいという雰囲気を感じた。
- ・ 探検活動をしていて感じるのは地域の人の温かさである。役場、総合センター、商店、郵便局など子どもの学習に快く協力していただいた。子どもたちも地域の人が協力的であることを感じているのか施設や地域の人に積極的に働きかけていた。
- ・ P T C A 作業には多数の参加をいただいた。ありがたいことだが、「P T C A 作業」の目的... ( P T A 活動全般について ) の本質を理解している人はどれくらいなのか？ 動員消火的な考えはないか？ 父親の参加は長年の課題であるが、むずかしい問題である。全社会的な問題として宣伝・提起することが必要ではないか？

#### C すくすく委員会

- ・ すくすく委員会の活動は、本格的に始動していないので夏休み中に活動を開始したい。

#### D 学習支援ボランティア

- ・ 2年生の読み聞かせ「スマイルお話し」に保護者からの参加・協力があり、子どもたちの多様な本との出会いの機会を広げることが出来た。いつも同じ人の話を聞くより新鮮なことから、話を聞く力が育っていると感じた。
- ・ 感謝ばかり。Dにも関係するが学習ボランティアも充実してきた。学級レベルで言わせてもらおうと、連絡帳や日記に子どもの成長を考えての意見、感想、アドバイスを進んで書いてくれる。私の栄養剤になっている。
- ・ 年度初めの募集で、延べ35分野に21人の協力申し出があった。家庭科や読み聞かせなどで計画的に教室に入り、支援をいただいている。今後他の教科でも積極的に取り入れていきたい。昨年度は初年度で登録は0であった。学校だよりやぼくら祭りなどの啓発が生きている。
- ・ ときめき学習で校外に行ったとき利用すれば良かった。2学期は出かける範囲も更に広くなると思うのでぜひ利用したい。
- ・ 家庭科の製作にかかわり、4日間にわたり合計14人の学習支援ボランティアに参加いただいた。春に登録してもらっていた個票が役立った。登録してくださった方へ文書を送付し、学習内容や時間についてあらかじめ知らせておいた。当日は学習前に打合せ、学習後に反省会を開いた。この反省会で出された意見を生かすことで、次時の製作がよりスムーズになった。貴重な意見をいただけた。30名近くの多様な製作を実施するには、複数の指導者で学習をすると効果的である。子どもたちの達成感・満足度も高かった。  
留意点は、学習支援ボランティアの方に具体的にどんな協力をしてもらいたいのか分かりやすく伝えることである。ともすると、こちらのねらい以上の手を差し伸べてくださることがある。学習の「ねらい」があるので、「ねらい」からずれないように配慮がいる。  
2つめは、児童に学習状況の把握である。製作のように個々で作業を進めることの多い授業では、自己評価が有効であった。子どもたちに「振り返りシート」を用意し、学習支援ボランティアとのかかわりや各自の工夫などを担任がつかめるようにした。
- ・ S先生は6年生の家庭科で学習ボランティアと学習を進めていた。クラスの様子について、客観的な意見をいただきありがたかった。
- ・ 支援をしてもらえばかりでは、何も始まらない。教師も地域に出て、出前講座をどんどん開くべきである。地域の方は本当に喜ぶだろう。

- ・ 保護者の学校支援は、さらにパワーアップしたと思う。特に感じたのは、運動会の朝の準備である。早朝から雨の中、屋外でも屋内でも実施できるように両方の準備をしてくださって感激した。
- ・ 自分に関係ないと、どんな活動を求めているか、どういうことをしているのか分かっていない。手紙だけでなく、もう少し活動内容が分かれば協力者が増えるのではないか。
- ・ 支援ボラはこの状態で続けてもらいたいと思う。
- ・ 忙しい中、時間を割いて支援ボラとして参加して下さった方々に感謝する。子どもたちは地域の人たちと触れ合い学ぶことで、教科書にないことを学ぶことができたと思う。
- ・ どの学年も積極的に取り組んでくれて、支援する方もやりがいがあった。長く続けていけるといいなと思う。
- ・ 支援ボラやすすく委員会がどういう活動をしているのかよく分からない人がけっこういると思う。活動の様子をポブラやホームページ、その他のたよりで今まで以上に上げて、多くの人に紹介していけば、参加して下さる方も増えるのではないか。
- ・ 支援ボラとともに活動(学習)することは、とても良いことだと思う。子どもが学校を卒業したら、関心が薄れてくるので、この活動はよいことだと思う。
- ・ このような形で地域の特に保護者以外の方との交流がもてるということは、とてもうれしいことだと思う。これが、地域での明るく元気なあいさつや交流につながり、更によい形に発展していくと思う。だから、これからもどんどんすすめてほしい活動だと思う。
- ・ たくさんの方が支援ボラに申し込んでくれてありがたい。私も自分にできることは協力したい。
- ・ みなさんが多忙な中、大変協力していただいていると思う。21名の支援ボラはとても多いのではないか。学校の都合に合わせるのもなかなか大変だと思う。その中での協力になるわけだから、こういうことはもっとたくさんの場でアピールした方がよい。
- ・ 支援ボラとして協力することにより、学年だより等に掲載され、学校で行われたことが身近に感じられる。自分にも何かできることはないかと思ったりもする。
- ・ 私の義母も調理に参加させていただき、楽しかったそうである。両親が仕事でも、祖父母で参加できるというのもいい。
- ・ 学校支援を全面に押し出している気もするが、地域のみなさんが快く協力してくれているので良いと思う。
- ・ 支援ボラは、とってもありがたい。6年生の家庭科では、子どもが上手にミシンを使って作品を作った。目の届く学習だからこそ、できたのだと思う。
- ・ 教師以外の方からいろいろなことを学べることは、子どもたちにとって良いことだと思う。ただし、地域の方々の負担になっては本末転倒である。
- ・ 支援ボラについては、何かお手伝いできることはないかと考えたが、実際にどのような形で何回くらい活動するのか具体的なことが分からなかったのが難しかった。
- ・ 支援して下さる方は本当にありがたい。子どもたちも「～くんのおじいちゃんすごい!」「～さんは、こういう話をしてくれたよ」と家でも話をしてくれる。地域の人への感謝の心が出てくると思う。
- ・ 活動に多く参加したい気持ちはあるが、仕事に追われているのが現状である。いつ頃、何をするのがもう少し早く具体的に分かればと思う。子どもたちは、手作りのものに大変興味をもっているようである。PTAとして、創造力を大切にする教育の手助けができればと思う。
- ・ とてもよいことだと思う。地域の方々から得意の分野を子どもたちに教えてくれることをこれからも続けてほしい。
- ・ 地域の方にどんどん学校へ来てもらい、子どもたちと触れ合ってもらいたいのはとてもよいことだと思う。全体的に言えることだと思うのだが、こちらから声を掛けないとあいさつができない子がいる。朝の「おはよう」くらいは子どもたちの元気な声が聞きたいと思う。嫌がられるかもしれないが、私は声を掛けるようにさせてもらっている。
- ・ 本に親しんでほしい。
- ・ 地域の方と学校が協力して子どもたちにかかわることは大変良いことだと思う。仕事をしているとなかなか学校には行けないが、PTAの活動などには、参加したいと思っている。
- ・ とても良いことだと思う。2先生の娘は、私より畑の作物の病気のことや何が効くか知っています。
- ・ 1学期の支援ボラで協力してくれた方々は、みんな登録されていた方だったのか。また、それぞれの学年の保護者や関係の人だったのか。日程によっては、お手伝いできることがあるかもしれない。できれば、その時々にも募集をしていただきたい。
- ・ やはり、その道のプロに話を聞くのは良いことだと思う。体を使うことは、先生方だけでは子どもたちを見るのにも限りがある。地域の方とのつながりも深くなり、特におじいさんやおばあさんが来てくれたら、家の孫以外にも、地区の子どもたちの様子を分かってもらえる。
- ・ 5年生の米作りの手伝いをしている。孫のような子どもたちとの作業は、自分にとってとて

も楽しい一時だ。子どもにこの体験を通して一番学んでもらいたいのは、安全で安心していただける食糧の生産・供給が大切であるということだ。農薬・化学肥料を使わない、限りなく自然に近い形で食糧生産、稲の栽培が大切であるということだ。

## (5) グランドデザインには盛り込まれていないが、その他の教育環境(整備)

- ・ 屋外の施設整備の取組を手伝えればと思っている。
- ・ 田沢小の子どもたちは、村主催のスポーツなどにもっと参加すべきではないだろうか。学校全体や村全体のことを考えるのであれば、子どもたちをどんどん参加させるべきである。他校と児童数が違うと言っても、その分職員数も少ないのだからそれは関係ない。学校の働きかけがもう少し必要だと思う。
- ・ 子どもが他校の子どもと交流する様子を何回か見た。その時毎回思っていたのが、田沢小の子どものおとなしさだ。人数的には負けていないのに、進んで前に出ようとしない。前に出ても堂々とできない。
- ・ ハローホリデーに参加する子どもの数が少ないように思う(特に高学年男子)。
- ・ 田沢の子どもは恥ずかしがり屋さんが多いように思う。朝・夕のあいさつがもっと元気に交わせるといいと思う。こちらから声をかけているが、子どもも見かけたら元気に声をかけてくれるとうれしい。
- ・ 仕事柄、給食の食材を届けることがあったり、子どもの忘れ物を持っていくことが多々あるが、4年生の子どもは「こんにちは」「おはようございます」のあいさつがとてもよいと思う。逆に5年生の女子は恥ずかしさからかもしれないが、こちらから声をかけても知らんぷりということがあった。なかなか難しいことだが、みんなが気持ちのよいあいさつができるようになるといい。
- ・ もっとよくなってほしいことはあいさつ。地域の人に元気よくあいさつしている子が少ないと思う。私はなるべく自分から声をかけるようにしている。やはり大人が声をかけないといけないと思う。うるさいおばさんだと思われても、笑顔で「おはよう」と言い続けていきたいと思う。あいさつが上手な子は、心も体も健康なのではないだろうか。田沢小の子どもたちは、とても素直で優しい子が多い。もっと伸ばして行ってほしい。
- ・ 日常生活の中で、基本的なことがまだまだできていない子どもが多いと感じる。「お願いします」「ありがとうございました」という素直な気持ちが大きな声で言えるような元気のある子どもに育つよう、微力ながら力になりたいと思う。また、やってよいことと悪いことの判断を期待する。悪いときは「ごめんなさい」とすぐ言えるような人間になるよう、地域と学校が一体となってできればと思う。
- ・ ミオン水泳でプールに来る子どもの中に、早く上がって待っているとき、ゲームコーナーや土産をかまう子がいた。「学校で来ているのだから、遊ぶのは我慢しなさい」と注意する。一人一人はあいさつもできてよい子だ。しかし、ミオンは地域の方々もよく見ている所なので、我慢もしてほしいと思う。「怒られるから騒がない」ではなく、公共の場のマナーを覚えてほしい。目に余ることがあれば、こちらから一言声をかけるようにしていた。